

第52年度 D.2610 ROTARY CLUB OF KOMATSU

8号



小松ロータリークラブ会報



■会長：那谷 忠雄 ■幹 事：野尻 順滋
■副会長：中川 公三 ■会長エレクト：中田 一於

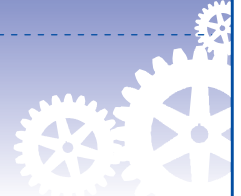


photo by
Y.TAKAYANAGI

小松点景「小松駅前」

■会長報告

- ・ 節分ということで厄を払い、新たな春を迎えていただきたいと思います。1/26日に御経塚でアプサライというお風呂とレストランのお店をオープンされた松田会員にお祝いを差し上げたいと思います。

■松多会員より

- ・ どうもありがとうございます。御経塚サティの近くで新しいお店をオープンしました。岩盤浴の施設と健康食が食べられる施設、エステなども行えるようになっています。中は中国やミャンマーなどの外国の装飾品を使った建物となっています。お時間がありましたらお立ち寄り下さい。

懇親会



例会報告

★出席報告

- ・ 会員数74名
- ・ 出席数54名
- ・ 欠席数20名
- ・ 出席率72.97%

※メイクアップ届け

1/20 第2回次期ガバナー補佐研修会
湯浅外会員

■会長報告

- ・ すごく良い天気が続いております。このまま春になると白山の水がどうなるかと心配です。本日のゲストを紹介させていただきます。本日はJR東海コンサルタンツ調査事業部長の村田清満様より「これからの社会資本マネージメント」という演題で卓話を頂戴いたします。

■幹事報告

- ・ 3月4日、石川第二分区都市連合会IMが開催されますので、皆様にもご出席をお願いしたいと思います。ご案内のとおり、登録は全員登録とさせていただきますので、参加の方をお願いいたします。それからこの例会終了後、理事会が開催されますので役員、理事の方は事務局の方へお集まり下さい。

卓話

「これからの社会資本
マネージメント(鉄道を事例に)」



JR東海コンサルタンツ株式会社
調査事業部長

村田 清満 様

鉄道一筋に仕事をしてきましたが、鉄道を含めた社会資本を21世紀になってどうマネージメントしていくかということが国や地方自治体の課題となっています。

社会資本というのはこれまでの高度成長期の作る時代から守る時代に入っています。国の社会資本ストック額といのが600兆円超あります。そのうち道路が1/3、その他、農林漁業、治山治水こういう割合になっています。平成14年度の白書によりますと、1964年の東京オリンピックを契機に社会資本は増えていますが、2000年を契機に横ばいから減っているというのが現状です。一方で、維持管理投資が増大していて、新規投資と維持管理投資が1対1という関係になってきています。

それでは、いかにこういうものを維持管理していくかということが課題になっております。少子高齢化が進み、財政事情も厳しい。そしてこれまでの効率重視から環境面も考慮する必要があります。加えて地震をはじめとした自然災害もあります。また人為的なテロというものも視野に入れて考えないといけないわけです。

行政の政策マネージメントですが、従来は途中での評価が抜けていたという反省から、行政においても民間企業の経営管理手法を導入する動きが加速されています。またアセットマネージメントということで、お客様は国民であるという風に考え、国民は税金、料金という形で社会資本に投資している投資家である。しからば国や自治体は運用管理を最大限にしてサービスを良好にしていくという考え方にあります。道路で考えると国民はユーザーであり、税金を払うということで投資家でもあります。

地球環境を考えた社会資本のマネージメントについてですが、4億5千万トンのCO²を全産業で排出しております。運輸はその1/5を締めています。一人を一キロ運ぶのにCO²排出量で言うと乗用車は鉄道の6倍かかっています。貨物ではトラックは鉄道の10倍となります。そういう中で、できるだけ環境に優しい運輸方法を選ぶという動きがあります。自動車というとトヨタのプリウスのようなハイブリッド車、鉄道でも蛇行している時に蓄電して消費電力を少なくしようという試みもあります。それから水素燃料車両も開発中です。LRT(ライトレール)という環境性の高い電車も考えられています。

LRTについてはイギリスのマンチェスターの事例があり、都市鉄道とLRTの相互乗り入れというものが鉄道のルネッサンスということでヨーロッパ

で行われています。

利便性を考えた社会資本のマネージメントということについては、高速化という点とシームレスについて考える必要があります。3年前に開業した九州新幹線の開業効果を見ますと、新八代、博多間は35分につながれています。八代から博多までは約2時間。新幹線開業前は、博多鹿児島間は3時間50分かかったのが、開業後は2時間12分と約半分くらいに短縮されていますが、ことさらには良い面と悪い面があります。従来の鹿児島本線を新幹線がショートカットしていて、従来特急が止まっていた駅が止まらなくなるということでその駅が衰退するという現象もあります。

次にシームレス化の話ですが、鉄道は1本の線路しか走らないということではなく、先ほど紹介した街なかを走るLRTが直接鉄道の軌道に乗り入れているという例です。鉄道の宿命である線の交通機関をできるだけ広がりのあるものに変えていくというのがシームレスという流れです。またJRの方で新幹線の車両が在来線に乗り入れできるものを研究開発中です。

最後は安全性ですが、阪神大震災で山陽新幹線の高架橋が壊れてしまいました。その後、平成7年に耐震設計の見直しが行われました。耐震については昔に比べて格段に厳しい基準となっています。阪神大震災の前後で5倍ほどの強度を求められています。また、新潟中越地震では新幹線が開業以来始めて脱線しました。その後、安全に対する取り組みが急ピッチで進められています。

ということで、社会資本に求められるものが変わってきています。

それから小松に関してですが、市の中心部はかなり閑散としていますが、LRTみたいなものが入れられないかなと思っています。近隣都市間は鉄道、中距離の交通は新幹線、遠距離は飛行機という役割分担かなと思います。東北上越新幹線の開業後のデータを見ますと、開業前は製造業出荷額や観光客数を見ると、北陸とも東北上越はそれほど差がなかったのが、現在は大きな差が出ています。

最後に小松への期待ということですが、よく出身地を聞かれると、石川県です、あるいは金沢ですと答えてしまいます。それを小松です、と言えるようになりたい、したいと思います。

また防災意識についてですが、この辺は防災にたいする意識が薄いので、そういう面での配慮が必要ですし、これからは高齢者に優しいまちづくりが必要だと思います。またここは農業が盛んですが、最近都会で田舎暮らしにあこがれて、本格的に農業をやりたい人が少なからずおられますが、そこには様々な障壁があつて、実現できない。その辺をなんとかできないかなと思います。

2月の誕生祝 祝い品:屋久島タンカン

4日	牧野總太郎	会員	19日	湯浅	幹也	会員
9日	篠岡 芳治	会員	21日	小林	幹雄	会員
17日	湯浅外志男	会員	25日	丸山	宜伸	会員
			28日	北村	茂	会員



ニコニコBOX

那谷 忠雄

村田事業部長様、本日はお忙しい中、小松へお越しいただき普段耳にする事の少ない貴重なお話をいただきましたことに有難うございました。大変勉強になりました。今後益々の御活躍をお祈り申し上げます。

野尻 順滋

村田様、今日は遠方よりお越しいただきましてありがとうございました。今後の社会資本の在り方についてお聞きし、認識を新たにしました。今後の益々の御活躍をお祈り致します。岡田会員「明峰の里」オープンおめでとうございます。健康に留意され、利用者、地域の方に愛される施設運営をご期待します。

生水 敏雄

村田様本日はお忙しい所卓話ありがとうございます。とても勉強になりました。今後共、益々御活躍されます事を祈りしております。

例会報告

★出席報告

- ・ 会員数74名
- ・ 出席数52名
- ・ 欠席数22名
- ・ 出席率70.27%



篠岡 芳治

久しぶりに会報に私の「ボケ防止」を載せていただきました。

岡田 賢一郎

御祝いいただきありがとうございました。

岡田 靖弘

村田様お忙しい中、卓話ありがとうございました。まだまだ地方では新幹線等の社会資本は不足しています。金沢以西への近伸にご支援下さい。今後ともご健勝に御活躍の程お祈り申し上げます。

西 正次

村田さん、今後の公共事業の在り方も含めての卓話ありがとうございました。

2530回 2月15日 例会 於：小松グランドホテル

■会長報告

・ 前回、例会終了後に理事会を行い、補正予算という項目でみなさんにご審議いただきました。その補正予算を組むためのメンバーの構成を理事会ではかり、ご承認いただきましたのでご報告させていただきます。補正予算の責任者として会計の堀さん、野尻幹事の2名で骨子を作っていただき、それにアドバイザーとして税理士の吉田さん、県の予算に造詣の深い、岡田会員、全部で4名で補正予算を4月の11日の例会までに作らせていただきます。なぜ補正予算かといいますと、各委員長になられてどれだけのお金がいってどれだけのことができるかわからないままに予算を作ってしまう、実行の段階で、お金がないからできなということがよくあったということ、特にニコボックスというみなさんにいただいた大きな財源があって、それを特に社会開発的な各委員会の事業の中で使っていければということの趣旨でやらしていただいて、特に今年の委員長のみなさんには補正でなんとかするから何とか行事をして欲しいということでやらしていただいて、もちろん決算で赤を出すつもりはありません。有効に使わせていただいたということで補正予算を組ませていただきます。

■幹部報告

・ まず小松商業高校がすすめております、ふるさと小松検定がございませ。それを小松ロータリークラブでもやってくれないかということで、ミニフォーラムの席でやらせていただくと思っております。テストの形式はテキストを見ながらわいわいがやがやと楽しくやりたいと思っておりますので、多くの方に参加をお願いしたいと思います。それから、次回の例会は家族旅行が来週に日曜日にありますので、よろしくお願ひします。それから、先ほど会長の方から報告がありました補正予算の件ですが、理事ならびに委員長さん方でこれから後半にかけてこういう事業をやりたいという方は是非補正予算に申し出ただければと思います。私と堀会計が窓口になります。なおその件のご案内は私の方から出させていただきますので、よろしくお願ひいたします。



卓話

「子どもはみんな我が子
—絆を太く—」

小松市教育相談員

林 和子 様



今日はお招きをいただき、ありがとうございます。

昨今、いろいろ荒れたことが多いのですが、122255人。2005年の不登校の数字です。64万人、これは厚生省が発表

した15歳から34歳までのニートの人数です。小学校公立、2018件、中学校23115、高等学校5150、この数字は公立の校内暴力事件です。校内暴力は右肩上がりになっていますが、校外は下がっております。外まで行くほどのパワーは消えてしまった。うじうじうじうじしたものは上がっているという現実です。校内暴力も友だちとか先輩後輩というよりも、大人、教師に向かってのものが増大しています。その結果、1995年には1200人台だったものが、2005年には3500人以上の先生が精神疾患を訴えております。3倍になっている現実があります。そしてまた、殺される、殺したという事件の多い2005年では、公立の小中高、文部科学省の調べでは105人、警察庁の調べでは、288人もが自殺をしております。高校生が一番多いのですが、小学生も増えています。もちろんこういう数字は調査の問題もあって、どこまで信憑性があるかクエスチョンですが、どんどん上がっているということで、新しく教育再生会議で少し体罰を見直そうではないかという話もなされております。

ところが、現実、今どういう子供たちが多いかといいますと、子供たちというよりも、30~40の男性に非常に多い現象があります。それは人との交わり方が下手糞である。人間嫌い、人間が怖い、じゃまくさい、一人が大好き、パソコンが恋人であるという現象が非常に出てきております。学者たちに言わすと、母親が男の子をかわいがり過ぎた、ペット化したという極論が出ております。結果、働かない、フリーターをしても続かない、結婚はしたくない、してもうまくいかない。仕事は、結婚は、家族は、みんな×××。生きることにすら無気力である。中には気うつという心身障害を起こす人もいます。40になっても年老いた親に頼っている。その反面、親に頼っているのに、親に頼らない人より親を軽蔑する傾向があると言われております。ようするに、子育て、躾、規範、ルール、教育といったものが昨今非常に多様化、複雑化、個性化していて、それぞれがみんな一番いい、というふうになった結果、逆に全てがみんな閉鎖的になってきています。

では、今、私たち、私が携わった小中高生の現状はどうかと言いますと、思春期が前倒しになって

きていて、小学校の中学年位が思春期の適齢期である。小学生の暴力がたんなる弾み、弾み型というのがすごく増えています。そして子供同士の虐待も非常に増えています。そしてもう一つ、体は大きくなってきている割に、中は非常に低年齢化してきています。小学校の肩こり頭痛、めまい、吐き気、更年期のような症状が非常に多くなっています。次に、もう脊髄液減少症、スポーツや遊びでなんでもないので転んで怪我をする。そういう時に、どこかに衝撃を受けて髄膜が破れて髄液がもれて脳が下がっている。バランスがとれない子供が増えている。

次に、規律性調節障害、これは昔から言われる自律神経失調症で、中学生の女子に非常に多いです。ちょっとしたストレスで起こるものですが、立った時に血流がうまくいかなくて全身がだるいとか、朝起きられない、気分が悪いとかで、学校に足が向かない。学校に問題がある、親に問題があるかということではなくて、その障害で子供が不登校になることが多くなっている。自分の体をコントロールできなくなっている。まず、走る姿に異変が出てきています。幼稚園、小学生が真っ直ぐに走れないというお子さんが増えています。そしてもうひとつ、コーディネートという言葉があります。自分の体に対してコーディネーション能力が低下してきています。自分の体を操ろうと思うと、目や耳で次にどうしよう、脳に反応します。それが筋肉に伝わって、歩くとか、叩くとか、動かすとか、反応してくるのですが、それが脳に伝わらない。なんでもないとこで、躓く、転ぶということがどんどん増えてきています。

では、なぜ、こういうことが増えてきているのか。いっぱいあるのですが、二つに絞ってみました。一つは子供同士で、一つは親が、周りの大人がその子の体を使った関わり方に非常に希薄な教育、子育てをしてきた、ということが考えられます。体験を通した遊びやふれあいが自然発生的になされていない、特に都会ではそうなっています。例えば、子供が生まれたら、高い高いをしてあげたり、肩車をしてあげたり、腕ももって逆さにしたり、お馬さんごっことかしましたですね。今、そういうことをするお父さんがほとんどいないそうです。これが、さっき言ったことが全部解消するもとです。お金もいらぬ、場所もいらぬ、道具もいらぬ、こんなに理想的な遊びや子育てが消えてしまった。で、今はとにかくお金も場所も道具もいらぬ、それをどう確立していくかが重要になってきています。もう一つ、食の乱れがあります。それが給食費未納という問題に発生してきています。食の乱れが人間力の低下につながります。ようするに、パワー不足になります。日本人、欧米人、アフリカの大きな人たち、そういう人たちに対抗するに

はパワーが必要です。食の乱れが早食いつながり、丸ぐい（飲み込んでしまう）、黙り食い、ながら食い、そういう乱れ方になってきています。昨日の夕刊に出ていましたが、石川食育推進計画というのが出てきて、そういう対策が全国的に出てきているそうです。今言った基本的なことが人間、命あってのものだね、命、この命にみなさんで気持ちをどんどん注入して、そして一人の人間として形を作っていくって立派な人間力、パワーある人間、こういったものを兼ね備えた大人にさせていただける、一番素晴らしい小松の力を持った母体の方々だと思って、私は話をさせていただいております。

で、昔から、家庭こそもっともよき道德の学校であると言われる。学校で道德を学んでいないのではないかと世間で批判されていますが、そういうものではない。家庭こそもっとも良い道德の学校である。その家庭人である、そして立派な公的なお役を持っているみなさんに、「私」という面で、会長さんなら那谷のおっちゃん、新谷さんなら新谷のおっちゃん、林なら林のぼあちゃん、この面でももう一分張り力を出していただきたい。公に渡り、私に渡り、子供たち、そしてその子供を持つ親たちにサポートをしていただけたら非常にありがたいと思っております。是非、私と公がイコールになるように、地域のリーダー、地域の顔、また黒子になって地域を盛り上げていていただきたいと思っております。

家庭の教育力低下を地域でもって支えていただきたいと思っております。

で、子供もやはり、成長するには、体があり、心があり、そして頭がついてくる。命があり、気持ちを吹き込み、形にする。これを整理して子供に与えないと、子供は崩れて行きます。

私たち大人がやれることは何か。やはり基本は、この気持ちを持っていただきたい。今年のテーマである、リードザウェイ、これを推し進めていただきたいと思っております。

子育てや生活に忙しい、お父さんやお母さんに欠けている物は何か？感謝、笑顔、触れ合い、言葉。これが往々にして欠けていって、だめやがいね、しまっしま、お父さんに言うよ、というような単発的な言葉しか出ないことが多いように思われます。感謝することによって、温かさや優しさや柔軟さが出てきます。笑顔をふりまくことで、この人から認められている、承認されている、僕や私を解ってもらえている、存在感を感じます。元気か。

普段からコミュニケーションがあれば、隣のおじちゃんであろうが、おばちゃんであろうが触っても気持ち悪いか言いません。そこから子供は安心してこの町に住むことが大好き。言葉をかけてもらうことで勇気ややる気が本当に出てきます。それが、自立へとつながり、人間力となってパワーある大人になります。お父さん方やお母さん方にお話する時にこういうことと同時に4つの言葉を思ってねと言います。待ちましよう、耐えましよう、信じましよう、そして喜びましよう。子供たちがぐーんと変わりますよ。こういったことを子はもちろんご近所に与えていただきたいと思っております。で、同時に昔のことを言うと今の人たちはあれですが、各自のキャパに合った頑張ろうや我慢は必要ではないかと思っております。

言葉によって今、ある大臣はいばらの道を歩んでいます。言葉によってお笑いの人が知事として活躍しています。教育再生会議のリーダーである、ヤンキー先生、良家先生は今神奈川県教育委員をしていますが、大変な悪でしたが、たまたま出会った先生の一言で学んで行こう、自分を認めてくれた、学んでいこうとあこまでになられたそうです。言葉で喧嘩して、言葉で伸直りして、言葉でお辞儀して、言葉はそれぞれに命を持っている。その言葉の大切さを言葉でもって子供たちに教えてあげて下さい。

われわれの地域で活躍する松井選手がこんなメッセージを書いています。「大人たちは真剣にあなたたちを救いたいと思っております。僕もその一人です。声を上げずに死を選択するなんてもってのほかです。勇気を持ってSOSサインを送れば、大人たちは必ず助けてくれます。」そういう大人たちになりませんか？SOSをくれる大人になりませんか？

最後に、私からみなさんに5つの「あ」の言葉を贈りたいと思っております。

愛しているよ。
慌てないよ。
焦らないよ。
諦めないよ。
安心していいよ。

ご健康に気をつけられて、ステキな隣のおじさん、おばさん、お兄さんにで活躍を、そして公的にも小松を支えて素晴らしい日々をお過ごし下さいますよう。



例会報告

★出席報告

- ・ 会員数74名
- ・ 出席数52名
- ・ 欠席数22名
- ・ 出席率70.27%

林 和子

那谷 忠雄

林先生、本日は教育について体験に基づいた貴重なお話をありがとうございました。今後の御活躍と御健康をお祈り致します。

野尻 順滋

林和子様、今日は子供をとりまく環境の問題点やその対処についてお話いただき、ありがとうございました。これからも御健康で益々御活躍されますよう御期待申し上げます。

生水 敏雄

林様、本日はお忙しい所ありがとうございます。これからの日本にとって大変重要な問題で勉強になりました。これからも御活躍されます事をお祈りしています。

法師 善五郎

早退

新谷 紀栄

林先生、本日の卓話、本当に有難うございました。身につまされたお話、人間としてのパワーを発揮した社会へ向かって行きたいものです。

福島 徹

先生、素晴らしい卓話ありがとうございます。早速今日からできてなかったことをやっつけていこうと思います。皆さんによろしく！

中川 公三

林先生、お久しぶりです。松東中学ではお世話になりました。以前と変わらず、若々しく、生き生きと御活躍され、情熱的で感心しました。これからも頑張ってください。

小林 朋子

人間として最も大切なことをわかりやすくお話いただきありがとうございました。

加登 康洋

宝くじ配当ありがとう！

2531回 2月25日 早朝例会 於：末広体育館前 / 春期家族例会 於：大阪市内

行程

末広体育館前6：45出発→11：00司馬遼太郎記念館→12：50玄品ふぐ法善寺約2時間
法善寺横丁→なんばグランド花月15：45開演約3時間→18：50千日前出発一路小松へ



四つのテスト

ロータリーでは、他の奉仕団体にはない“職業奉仕”という考え方が強調され、職業奉仕とは自己の職業を通じて社会に奉仕することだと説かれている。そして、“ロータリーの綱領”にも、『事業および専門職務の道徳的水準を高めること；あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること；そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するためにその業務を品位あらしめること』という表現がある〔RI定款4条2号、標準定款3条2号〕。だが、社会奉仕が言葉や観念としても成熟しているのに対して、職業奉仕という言葉や観念は一般社会には馴染が薄い。

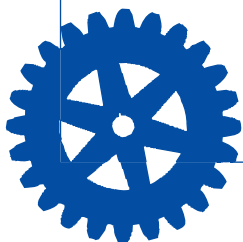
そこで、日常の言葉や行動が、職業奉仕の精神に合致しているかどうかを判断する目安として、“四つのテスト”が引き合いに出される。“四つのテスト”は、シカゴRCの会員で1954年度にはRI会長も務めたハーバート・テイラーが考案したもので、『言行はこれに照らしてから—真実かどうか；みんなに公平か；好意と友情を深めるか；みんなのためになるかどうか』と四つの問い掛けをしている。テイラーは、この“四つのテスト”を適用して、1932年に破産に瀕した企業を救ったという〔必携旧版・職業奉仕40項〕。

テイラーの“四つのテスト”は1942年度のRI理事会でロータリアンの言動の倫理基準として採択されており〔必携旧版・職業奉仕42項〕、職業奉仕を実践するための評価基準ともなっている。日本のロータリーでも、例会で、“ロータリーの綱領”までは唱和しなくても、“四つのテスト”を唱和しているところは多い。さらに、“四つのテスト”には、相模原南RCの水谷暢宏によってメロディが付けられ、“ロータリーソング”として唱和の便が図られている。

論語にも、これと類似した四つの項目から成る章句が存在する。すなわち、『寛なれば則ち衆を得、信なれば則ち民任じ、敏なれば則ち功あり、公なれば則ち説ぶ—寛なれば人望が得られ、信があれば人民から頼りにされ、機敏であれば仕事ができ、公平であれば悦ばれる』と〔金谷 273項〕。“寛”は寛容の精神であり、“好意と友情を深める”ための基盤となる。“信”は、『うそをつかない徳』とされているので〔金谷 21項〕、“真実”に相当する。“敏”であってこそ、職業奉仕の出発点としての仕事の上でも“みんなのためになる”ことができる。そして、“公”は、文字どおり“公平”に該当する。だから、“寛・信・敏・公”は、“論語版・四つのテスト”ということもできよう。

因みに、日本では、テイラーの“四つのテスト”は、そのままの命題では適用が困難であるとの意見もある。そこで、金沢東RCでは、テイラーの“四つのテスト”と併用しつつ、より具体的なロータリアンの信条として、『うそ・偽り・無理はないか？正々堂々筋が通っているか？善意と友情に徹しているか？世のため・人のためになるか？』という四つの項目を提唱している。

※北 弘美 著 「論語ロータリー製本版」より抜粋



ニコニコBOXの年間達成目標 2,500,000円!
ニコニコBOX 2月末の累計金額 1,416,300円!

事務局:〒923-0957

石川県小松市本折町33 小松グランドホテル2F
TEL/0761-24-1340 FAX0761-24-4700

©Email : komaturc@plum.ocn.ne.jp

©URL : <http://www.rotary2610.jp/komatsu/>

会報広報委員会:委員長/滝本博幸

中橋 勝美・吉田 功・一森 孝彦